

耐震診断結果の見方

建築物の耐震診断結果【例】

建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称			構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価結果				安全性の評価 (I, II, III)	耐震改修等の予定		備考
						I_s/I_{s0}		$C_{TU} \cdot S_D$			内容	実施時期	
○○○○○○	□□区 △△ 0-0-0	……	5-6	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)	鉄骨が非充腹材の場合	I_s/I_{s0}	1.01	$C_{TU} \cdot S_D$	0.49	III			

耐震診断義務付け対象建築物の耐震診断の結果の公表について (技術的助言) 【抜粋】

耐震診断の方法			構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
			I (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。)	II (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。)	III (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。)
(5-6)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
	鉄骨が非充腹材の場合	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$	

①耐震診断結果から「耐震診断の方法の名称」を確認し、技術的助言の表から同じ「耐震診断の方法」を探します。

②耐震診断結果から「安全性の評価結果」の数値を確認し、①で探した欄と照らし合わせます。

③照らし合わせた結果から耐震診断結果の「安全性の評価 (I, II, III)」が決まります。